

## 【問題】

症例：60 歳代，男性。

主訴：腹部膨満感。

既往歴：特記すべき事項なし。

家族歴：特記すべき事項なし。

現病歴：数年前に慢性 C 型肝炎を指摘され，治療を勧められたが，放置していた。最近，腹部膨満感を自覚するようになり，当院を受診した。全身リンパ節腫張はみられなかったが，腹部に異常腫瘍を触知した。

血液検査：白血球数，赤血球数，血小板数に異常なく，生化学検査では AST (68IU/l)，Alp (310 IU/l)，LDH (720IU/l) と CRP (2.81mg/dl) の上昇がみられたものの，AFP，PIVKA II，CEA，CA19-9，CYFRA21-1，CA125，SCC などの腫瘍マーカーは陰性であった。HCV 抗体は陽性であった。なお，術前測定した可溶性 IL-2 レセプター (IL-2R) 値は 1240U/ml と高値であった。

画像診断：Dynamic CT (Figure 1) では，肝左葉に大型腫瘍がみられ，内部はやや分葉状で，明

らかな造影効果はみられないものの，腫瘍の一部に脈管が貫いている所見 (矢印) がみられた。SPIO-MRI では同部は高信号領域として描出された。ガリウムシンチでは同腫瘍部に強い集積がみられたものの，全身の他部位には異常集積像はみられなかった。胸部・縦隔 CT には異常所見はみられなかった。

内視鏡検査：上部消化管内視鏡では壁外性の圧排像のみみられた。下部消化管検査でも異常所見はみられなかった。

## 次のうち最も疑われる疾患はどれか？

1. 肝細胞癌
2. 肝内胆管癌
3. 転移性肝癌
4. 悪性リンパ腫

解答は日本消化器病学会雑誌105巻12号をご覧ください



Figure 1. Dynamic CT 早期相